

電子マニフェストの EDI 連携で広がる環境データ利用

プリマハム株式会社

管理本部サステナビリティ推進部環境管理課 担当課長 石塚 文
係長 石本 啓太

■ 企業プロフィール

プリマハムは1931年「竹岸ハム商会」として金沢で創業し、おもに「加工食品事業（ハム・ソーセージ、加工食品の製造・販売）」と「食肉事業（豚肉・牛肉・鶏肉を中心とした食肉の調達・加工・販売）」を柱として事業展開しています。

長年培ってきた技術力とブランド力をいかし、安全・安心で高品質な商品を提供することで、お客様の多様なニーズにお応えしています。



プリマハム（株）鹿児島工場全景

企業概要

創 業：1931年

所 在 地：東京都品川区東品川4丁目12番2号

GRC品川イノベーションパーク

従業員数：1,137名

（単体、2026年3月31日現在）

事業内容：ハム・ソーセージ、食肉および加工食品の
製造販売

1 電子マニフェストの導入

当社の製造拠点は国内で4拠点あり、ハム・ソーセージおよび加工食品の製造をしています。工場から排出される主な産業廃棄物は、汚泥、動植物性残さ、廃プラスチック類で年間の排出量は約11,000tにのぼり、おおよそ半分は各工場の排水処理施設から発生する余剰汚泥が占めます。残りの半分は、各工場の製造工程から発生する動植物性残さのほか、原材料の包装フィルムや商品のパッケージング工程で発生したフィルム等の廃プラスチック類が占めます。

国内4工場全てで電子マニフェストを使用しており、昨年度の電子マニフェストの使用件数は約3,200件でした。

電子マニフェストの使用を開始する以前は、各工場で紙マニフェストの保存・ファイリング、自治体へ産業廃棄物管理票交付等状況報告書作成業務の他、紙マニフェストの情報を電子化するため紙マニフェスト情報の入力を委託していた外部機関との調整にも追われていました。これらの業務負荷軽減や、産業廃棄物に関するリスク管理強化の目的で2011年9月から国内4工場において電子マニフェストの運用を開始しました（国内グループ会社の製造拠点においても同時期に電子マニフェストの運用開始）。

2 EDI 方式による電子マニフェストの運用と情報の活用

当社ではマニフェスト情報に加え、処理業者との委託契約（産業廃棄物および一般廃棄物、有価物）と許可情報等も一元的に管理するため、電子マニフェスト導入当初から外部システム（EDI方式[※]）を利用して廃棄物の管理業務の効率化を図っています。処理業者との委託契約は各製造工場で締結していますが、一元管理できるシステムを導入することで、社内のコンプライアンス体制も強化されました。

マニフェストの登録作業においては、廃棄物を排出する前月には翌月の廃棄物の排出予定に合わせ、

事前にマニフェスト情報を作成しておき、その情報を処理業者と共有しています。これにより、当社の現場担当者と収集運搬業者の調整やマニフェスト登録が円滑に行えるようになりました。

また、登録されたマニフェスト情報は各種報告書を作成するためのデータ集計にも活用しています。当社は食品リサイクル法の食品廃棄物等多量発生事業者該当するため、同法に基づき年1回提出する定期報告書作成への利用のほか、社外開示する環境データの管理やISO14001（環境マネジメントシステム）の目標達成状況の管理、内部監査資料等に利用しており、正確かつ詳細な情報が速やかに把握でき作業の効率化にも繋がっています。

※ EDI方式・JWNETは外部システム（ASP）と連携可能で、ASPが提供するシステムを利用し電子マニフェストの運用・管理を行うこと。

3 環境への取組み等について

プリマハムグループは、「廃棄物排出量の削減」を重要課題（マテリアリティ）のひとつとして位置づけており、「2030年度までに廃棄物排出量（廃プラスチック・食品廃棄物）5%以上削減（2021年度比、製造原単位ベース）」および「リサイクル率（食品廃棄物、排出量ベース）98%以上」という目標を設定し、各工場で目標達成のための以下の取組みを実施しています。

○食品廃棄物の低減

各工場では、生産計画の工夫（生產品目の切り替えの最少化）や設備配置の工夫（運搬・移し替え時の落下防止のための連続ライン化）等の取り組みにより食品廃棄物の低減に取り組んでいます。

○廃プラスチック類の有効利用

北海道工場が発生した廃プラスチック類を工場内でペレット化し工場のボイラー燃料の一部として利用しています。2024年度は約57tの廃プラスチック類を燃料化しました。また、鹿児島工場では廃プラスチック類を破碎・洗浄後に処理業者に委託処理しており、処理業者においてフラフ燃料化されています。

今後は、廃棄物排出データの分析による環境負荷低減施策の検討も進めていき、拠点ごとの排出傾向の可視化や、廃棄物削減目標の管理に役立てていく予定です。

○燻製チップの有効利用

鹿児島工場で生産している香蕉®あらびきソークの生産過程で発生する燻製チップかすは、地元のリサイクル業者と連携して有効活用しています。同社では燻製チップを消臭剤として利用後に同社が運営する農場で高菜生産の堆肥として利用しており、2段階の有効利用となっています。また、生産された高菜は、地元の漬物業者によって加工され、その後、地域の小売店で販売されています。 **写真**



写真 燻製チップかすを堆肥利用して栽培した高菜

カテゴリー	重要課題	目標・KPI
地球環境の保全に貢献する	温室効果ガス排出量の抑制（Scope1,2）	● 2030年度までに温室効果ガス排出量 24.3%削減（2021年度比）※海外拠点・豚生体由来は除く ● 2035年度までに温室効果ガス排出量 38.0%削減（2021年度比）※グループ全体
	廃棄物排出量の削減	● 2030年度までに廃棄物排出量（廃プラスチック・食品廃棄物）5%削減（2021年度比）※製造数量あたりの原単位 ● リサイクル率（食品廃棄物）98%以上 ※排出量ベース
	水使用量の削減	● 2030年度までに水使用量 3%削減（2021年度比）※製造数量あたりの原単位
	プラスチック使用量の削減	● 包装資材に用いるプラスチック使用量削減
	生物多様性の保全	● 温室効果ガス、水使用量、廃棄物等の削減の取り組みを通じ、生物多様性への負荷を軽減

図 プリマハムグループの重要課題と目標・KPI（環境関連のカテゴリーのみ抜粋）